



OLA
ONCARD Link Agent

PATENT PENDING | 特許出願中

AIを、 「探しに行くもの」から 「出会うもの」へ

名刺・看板・広告・景色。

OLAは私たちの身の回りに存在する、

あらゆるアナログ媒体を、AIにつながる“入口”に変える新しい仕組みです。



アナログとデジタルを融合する、新時代の顧客接点

ONCARDとは

アナログ媒体 × AR

名刺・看板・商品・広告・パンフレットなど、私たちの身の回りにある「アナログな媒体」をAR（拡張現実）によってデジタルとつなぐ仕組みです。紙やモノそのものを変えるのではなく、"行動のきっかけ"として拡張します。



ARによる視覚的な驚き

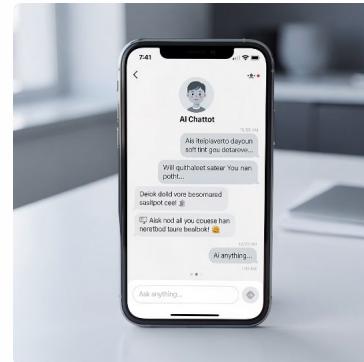
スマートフォンをかざすだけで、紙媒体が動き出す。予想外の視覚体験が、お客様の興味を一瞬で引きつけます。

OLAとは

アナログ媒体 × AR × AI

OLA（オーラ | ONCARD Link Agent）は、ONCARDという仕組みの上に配置されるAI営業・案内エージェントです。リアルに存在する"もの"の中に、"AIへの入口"を配置します。

Webへ探しに行くのではなく、人が何かを「見た」「手に取った」その瞬間に、AIと自然に出会える体験を提供します。



AIによる対話体験

質問に即座に答え、最適な提案を行うAIエージェント。24時間365日、あらゆる場所で対話が可能です。



オンデマンドな接客

既存のアナログでも、ただ存在するだけのWeb上でも不可能だった『オンデマンドな接客体験』をあらゆる場所で実装します。

なぜ、AIは営業の現場に立てていないのか

相談に応じるAIは、すでに数多く存在する。

だが顧客と向き合い、提案し、“営業として機能するAI”は、ほとんど存在しない。

問題はAIの性能ではない。



Webやアプリの中で 待機するAI

世の中には多くのAIチャットボットが存在しますが、そのほとんどは「Webサイトの奥深く」に待機しています。既存のお客様が必要な時にわざわざ検索し、サイトを訪れ、チャット画面を起動しなければ出会うことができません。



「社内」でしか働かないAI

最新の「AIエージェント」でさえ、その多くは事務作業の自動化やデータ分析など、社内業務の「効率化」が中心となります。顧客と直接対話し、提案し、売上に繋げるといった、「顧客の最前線に立つ役割」は、ほとんど任されていません。



物理的な「出会い」の欠如

普及を妨げているのは性能不足ではなく、顧客との圧倒的な「接点のなさ」です。どんなに賢いAIも、「出会い系」がなければ、目の前にいる未来のお客様を動かすことはできません。AIはまだあなたの存在を知らない人にまで声をかけることはできないのです。

これから必要なのは、AIを「内側のツール」にするのではなく、街中のあらゆる場所に「営業エージェント」として解き放つこと。

AI営業エージェントを、 あらゆる媒体に ばら撒ける時代へ。

では、Web上ではなく、
本来、経営者や営業担当が顧客と出会う場所はどこか。

そして私たちは、新しいサービスやビジネスを知るとき、どこでそれに出会っているのか。

交流会での名刺交換。店舗の看板。
ポスター・チラシ、パンフレット・カタログ、DM。
展示会・イベントブース。

人が”行動している場所”にこそ、本当の接点がある。
その場所にAIの入口を置く。
すると、”出会うAI”が生まれる。



なぜARを通すのか

AIを、”その場”に立たせるだけでは足りない
Webサイトは、「見たい人」が見に行くもの。
でもARは「何が出てくるんだろう？」で始まる。
まず目の前で動き出す。その場で体験が始まる。
だから、”ちゃんと調べよう”と思っていない人にも届く。
そして、そのままAIと話せる。
探しに行くAIではなく、その場で出会うAIになる。



OLAがもたらす価値

「見た瞬間」が、最高の営業チャンスに。
情報の「提示」を「対話」に変える。

リアルの接点をデジタルと融合する、AI実装プラットフォーム。



AI付き媒体の実現

名刺が「AI付き名刺」として新たな価値を持ち、看板・広告など街中のあらゆる媒体にAI案内機能を追加。アナログ媒体を高度な接客ツールへと進化させる。



24時間稼働のAI営業エージェントによる パーソナライズ提案

AIが顧客一人ひとりのニーズをヒアリングし、最適な商品を提案。実質24時間稼働する営業エージェントとして、取りこぼしのない顧客体験を提供。



接触時間の増加

潜在顧客が企業AIに触れる機会が爆発的に増加。場所や時間を選ばず、AIによる質の高い営業案内・店舗案内がいつでも可能に。

DX化の加速

企業DXを劇的に加速。展示会、観光地、さらには推し活まで、あらゆるシーンでの体験性が向上し、ファン化を促進。さらに、一度作ったAIを複数媒体に横展開でき、情報提供が標準化され、営業の属人化を減らす。

ARがつくる、理解の土台

単なるQRコードからのWeb誘導とは一線を画す。まずAR(拡張現実)で魅力を視覚的に提示する。その後にAIで対話を始める。「見る」→「話す」という自然な流れにより、顧客の理解と納得が深まり、営業体験がより効果的にいなる。

自社開発のAIも活用

「AIを開発したが、使われていない」その課題を解決する。自社開発したAPIやエンジンも、OLAと連携可能。名刺、パンフレット、製品パッケージが「AIの起動トリガー」へ変わる。

MECHANISM

OLAの仕組み

① 媒体をARカメラで読み取る

QRコードやNFCから起動したARカメラで、
名刺・看板・広告・景色などを読み取る。

② ARが媒体の種類を判定する

名刺か、看板か、広告か、景色かを画像認識で判断。

③ 最適なAIエージェントへの入口を表示

名刺なら自己紹介AI、看板なら店舗案内AI、
広告なら商品説明AI。



活用シーン



飲食店 | 店舗そのものが営業エージェントになる

看板、メニュー、テーブルPOP。
そこにAIが立つことで、店舗は24時間働く営業空間へ進化します。来店前の疑問に答え、来店中の体験を深め、来店後も関係が続く。単なる情報表示ではなく、「その場で対話できる接点」を生み出します。



IT企業 | オンラインの外へ、営業を解き放つ

優れたSaaSやシステムを開発していても、その価値はWebサイトの中に閉じてしまいがちです。OLAIは、プロダクトの説明や導入メリットを対話型で届ける“AI営業エージェント”を名刺・広告・展示物などのリアル接点に配置します。

これまでオンラインでは接点を持てなかった層にも、わかりやすく、自然に価値を届ける。「知っている人だけが辿り着くプロダクト」から、“出会えるプロダクト”へ。



イベント・展示会 | 出会いを、持ち帰れる営業へ

展示ブースに立つAI説明員。
来場者がその場で質問し、理解し、納得する。
そして、名刺や配布物を通じてその対話はイベント後も続きます。
採用説明会、商品発表会、ファンイベント。
“出会った瞬間”が、そのまま営業導線になる。
単発で終わらない接点設計を実現します。

AIが街に立つ、 その一歩手前で。

AIロボットが街中に存在する未来は、きっと来る。
でもその前に、AIを“そこにいる存在”にできるはずだと私は考えました。

名刺も、看板も、展示会も、あの景色にも。
人が行動するその場所に、
ARで価値や魅力を表現し、
現実の接点をそのまま対話の入口へ変えていく。
それが、OLAの発想です。

最先端の技術を、もっと身近な存在へ。

株式会社HKSTYLE
代表取締役 木村 華



取材・導入に関するお問い合わせ

Company Information

会社名： 株式会社HK STYLE

代表： 木村 華

所在地： 福岡県福岡市中央区天神4-7-11-4F

設立： 2016年12月5日

事業： AR × AI 体験設計、建築3D技術サービス

問合せ先： info@hkstyle.co.jp

Web URL： <https://www.hkstyle.co.jp/>

※関連技術 特許出願済み（2026年出願）

Thank you.